



<目次>

，音 鳴つ 憲愚聯乖鋤に答 券 頂平 . . . . . 平

年度評価の方法について . . . . . 1  
，音 泡O 駁A歌 兎蛸 乖籙相激乖 頂平

評価結果の記述について . . . . . 3  
，音 弊"葉 須蕪乖鋤に襍乖 頂平

1 全体評価 . . . . . 5

2 項目別評価

大学の愚聯賃銚 刃 汙P軸 q 跣飢^々則 u 鑑V相激乖 頂平





(小項目評価の基準)

- : 年度計画を上回って実施している
- : 年度計画を順調に実施している
- : 年度計画を十分には実施していない
- : 年度計画を実施していない、または大幅に下回っている

(大項目評価の基準) 厭艰爪端 隆 / 文 包牟井承磔 躑符画基準) 文"乙 ポ犒 u 景ぎ / 基準)





## 1 全体評価

公立大学法人名古屋市立大学の第三期中期目標期間の3年目である令和2年度の業務実績は、年度計画を計画どおり遂行しており、全体として中期目標の達成に向け順調に業務を実施しているものと認められる。

特に、市立東部・西部医療センターの大学病院化については、理事長のリーダーシップのもと法人をあげて難しい大プロジェクトに取り組み、課題の検討を進めるにとどまらず、令和3年4月の大学病院化を実現したことは高く評価できる。

### 【評価結果と判断理由】

1 「大学の教育研究等の質の向上に関する項目」のうち、「第1 教育に関する項目」

を実施と認められる。特にた天来音DE 警鑫柙氩丸 壘等のうち 蘊変究等計画え曼お4 解癩U ク属





・市立東部・西部医療センターの大学病院化

市立東部・西部医療センターの大学病院化に向けて、大学病院化準備委員会を立ち上げ、名古屋市総務局及び病院局並びに名古屋市立大学の三者で定期的に会合を

次に、国際化について指摘する。

3 令和2年度に新たに2校と大学間交流協定を締結し、協定校数が増加したことは評

## 2 項目別評価

### 大学の教育研究等の質の向上に関する項目

#### 第1 教育に関する項目

##### 【進捗状況の確認結果】

「教育の内容及び教育の成果」、「教育の実施体制等」、「学生への支援」の取り組みについては、年度計画を計画どおり実施しているものと認められる。

#### 経済学部におけるIoT、AI教育の強化

計量経済学など情報教育を実施する教員採用人事を進めるとともに、計量経済学を含めた情報教育系の科目の整理を行い、経済学部として履修証明を発行する情報教育プログラムを決定した。

#### 経済学研究科における英語のみで学位が取得できる国際プログラムの導入 達





### 第3 社会貢献に関する項目

業務実績報告書の自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

特になし

【評価にあたっての意見、指摘事項】

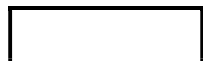
- ・コロナ禍における市民公開講座の開催及び「名市大ブックス」の出版

新型コロナウイルス感染症を理由に安易に止めてしまうことなく、徹底した感染症対策をして公開講座の実施にこぎ着けたこと、また、コロナ禍において学びの機会が一時的に減少する中、



## 第4 国際化に関する項目

【評価結果】



A

（参考）小項目評価  
評価

計

## 第5 附属病院に関する項目

### 【評価結果】

A
---

(参考)小項目評価

評 価					計
項目数	0	11	0	0	11

### 【実施状況】

#### 特筆すべき項目

- ・市立東部・西部医療センターの大学病院化  
(「1 全体評価【全体的な実施状況】 重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み (P.7)」参照)
- ・新型コロナウイルス感染症への対応について  
(「1 全体評価【全体的な実施状況】 重点的な取り組み及び特筆すべき取り組み (P.6)」参照)

遅れている項目 罨 盧も 1 遵 亟 宍 俳 ぢ ず 未 じ 琨 要 邊 孽 ) 抗 イ 忒 蟬 焔 ) 敢 浅 疔

**【評価にあたっての意見、指摘事項】**

- ・ 将来の医療需要を見据えた医療提供体制の検討、柔軟な人員配置

新型コロナウイルス感染症患者の受入れを行いつつ、通常診療を継続し、ワクチン接種への協力もしており高く評価できる。こうした環境下においては、特に医療従事者の働き方改革が重要な課題となるため、今後の取り組みに期待したい。

- ・ 安全で最高水準の開かれた医療を提供するための医療安全の推瀬

## 業務運営の改善及び効率化に関する項目

【評価結果】 A

--

(参考)小項目評価

評 価

計



- ・開学 70 周年記念事業を始めとした寄附の獲得

開学 70 周年ということで努力され、多くの寄附を得られたことは評価できる。寄附の獲得は大学の自己財源として重要なものであり、企業からの寄附を含め、幅広く卒業生から寄附を募る仕組み作りについて引き続き取り組んでいただきたい。

- ・積極的な施設貸出に向け、柔軟な貸付用途や貸付料金の設定を可能とするための規程整備

新型コロナウイルス感染症の影響により施設の有償貸出が困難な状況のなか、規程整備を行い、これまで以上に柔軟に施設の貸出につなげられるよう準備したことは評価できる。









